

夏は苦手克服に取り組もう

茗溪塾塾長 長谷 誠基

夏期講習のスタートの日、ある学年で授業の初めに生徒達に聞いてみました。「みんなの夏期講習で達成したい目標は何ですか？」ということです。1人ずつ順番に聞いてみましたが、「苦手な理科をできるようにしたいです。」「偏差値を10上げたいと思います。」「歴史の暗記を頑張りたいです。」という感じの答えがほとんどでした。これは小6や中3の受験学年でも同じような答えが返ってきます。何人かに聞いた後、「そのままだと、何も達成できずに夏が終わってしまうかもしれないよ。」と言うと何人かの生徒が気付き始めます。実は以前にも同じことを言われたことがあるのを思い出したのです。「具体的でない目標は結局何をしたいかわからなくなって、何もしないで終わってしまう。」ということです。そこでもう一度考えさせて改めて聞いてみると今度は、「理科の計算が苦手なので、テキストの問題の間違ったものを必ず解き直しします。」や「歴史を覚えるために〇〇のテキストを夏に1周させます。」などというように答えが変わってきます。まずこれが目標を達成するための一歩です。まだ夏の期間は残っていますので、もし目標が立てられていない場合は今からできる目標を立ててみてください。次に目標を達成するための具体的な方法を考えます。「何をやるか?」「いつやるか?」「どこでやるか?」の3つが実践するために必要なことです。これを考えていくと、「理科の計算を克服するために」→「●●のテキストを」→「土曜日の午前中に」→「家で解いてわからなかったものを塾で質問する」などのような簡単な計画ができると思いますので、それを目に見えるようにしておくとともに効果が上がります。目標は2つ、3つとある場合が多いのでこれで1週間の学習の計画ができていきます。気を付ける点としては、決して無理な計画を立てず、必ずできるものにして下さい。達成できないことが多くなると計画はおそらくそれっきりになってしまうでしょう。もし、計画がうまく実行できない場合は途中でも計画を変更することが必要です。勉強の計画はあくまでも身につけるためのものなので、ただ「やった」という事実だけではできるようにはなりません。身につけるために必要であれば、少し進度をゆるめて繰り返しやった方が後々効果が高くなります。勉強は人間がやるものなので、このテキストをやったからこの教科ができる、とうまくいくようになったりすることはありません。「こうすればこうなる」という論理の式にはあてはまらないものです。ですから、計画を立てるときには必ず本人主体で立てさせるようにすることが重要です。小学生なら一緒に計画を立てて、保護者の方が調整役になるのがいいと思います。中学生以上なら先生に一度見てもらって必要なら修正しながらやるよといいでしょう。

夏の学習が終わったら、次は秋の学習計画が必要になります。秋の学習で重要なことは「夏を整理すること」になります。次号ではこれについて詳しく書きたいと思います。